取扱いの趣旨

MMP-3は関節リウマチの疾患活動性マーカーで骨破壊と相関するとされるが、抗CCP抗体やRFと比べて感度は高いが特異度は低く、関節リウマチ診断の有用性は低いことから、原則として認められない。

DX審査支払機構が公表している取扱いの全文

【検査】　《令和7年5月30日》

539　ＭＭＰ－３（関節リウマチ疑い）の算定について

○　取扱い

関節リウマチ疑いに対するD014「９」マトリックスメタロプロテイナーゼ－３（ＭＭＰ－３）のみの算定は原則として認められない。

○　取扱いを作成した根拠等

ＭＭＰ－３は関節リウマチの疾患活動性マーカーで骨破壊と相関するとされるが、抗ＣＣＰ抗体やＲＦと比べて感度は高いが特異度は低く、関節リウマチ診断の有用性は低い。ただ、関節リウマチ診断確定後では将来の骨破壊と有意の相関があるため、早期治療の必要性評価に優れているとされる。

以上のことから、関節リウマチ疑いに対するＭＭＰ－３のみの算定は、原則として認められないと判断した。

グラフの見方

1　棒グラフ(該当レセプトの審査結果)
　当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2　折れ線グラフ
　取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】審査の結果

査定	返戻	：取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	：検証が必要

審査結果の概要

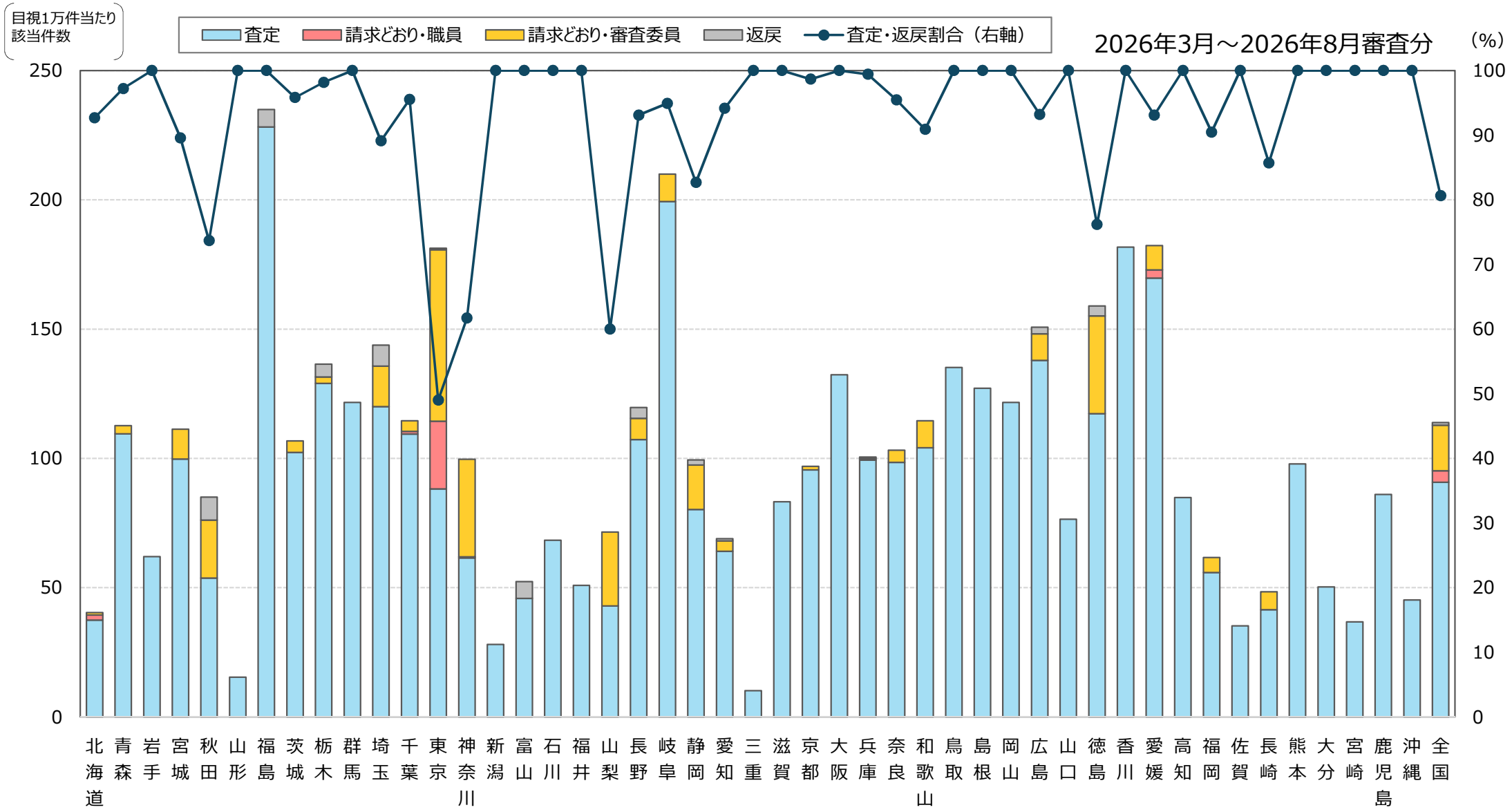
- 全国の査定・返戻割合　80.63%
- 検証対象都道府県　8

検証観点	都道府県	備考
査定・返戻割合が低い	東京、山梨、神奈川、秋田、徳島、静岡、埼玉、宮城	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	東京、神奈川	対象１万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	東京、徳島、神奈川、山梨、秋田、静岡、埼玉、宮城	〃

該当件数（全国）	【条件】	3,304件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	2,664件
検証を必要とする審査	請求どおり	640件

一般539　関節リウマチ疑いに対するMMP-3の取扱い

【認めない事例】



	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	全国
該当件数	82	36	8	48	19	1	35	48	55	56	230	112	851	235	16	8	14	5	5	29	138	104	154	2	17	75	321	172	22	22	10	6	57	59	15	42	28	58	16	42	4	7	6	3	7	14	10	3,304
請求どおり件数	6	1	0	5	5	0	0	2	1	0	25	5	434	90	0	0	0	0	2	2	7	18	9	0	0	1	0	1	1	2	0	0	0	4	0	10	0	4	0	4	0	1	0	0	0	0	0	640

【該当件数】取扱いの趣旨に該当したレセプト件数